

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	第21期第1回東村山市立公民館運営審議会			
開催日時	令和3年2月22日 午後6:00～午後7:30			
開催場所	中央公民館 レクリエーションルーム			
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 佐藤会長、小山副会長、渡邊委員、岩松委員、森山委員、永吉委員 (市事務局) 山田教育部次長、服部公民館長、田中秋津公民館長、町田富士見地区館長、小山廻田地区館長、比留間庶務係長、川嶋事業係長、松山主任 ●欠席者： 村上委員、栗原委員、角町委員、杉山委員、半井萩山公民館長			
傍聴の可否	可	傍聴不可の場合はその理由	傍聴者数	0
会議次第	1. 委嘱状交付 2. 会長等選出 3. あいさつ 4. 諮問 5. 審議事項 (1) 令和3年度市民講座のテーマについて 6. 報告事項 (1) 主催事業及び講座報告 7. その他 (1) 次回日程について			
問い合わせ先	教育部公民館 担当者名 松山 電話番号 042-395-7511 ファクス番号 042-395-7515			
会 議 経 過				
1. 委嘱状交付 ・教育部次長より委員へ委嘱状の交付。				

2. 会長等選出

- ・互選により会長に佐藤委員、副会長に小山委員が選出される。

3. あいさつ

各委員よりあいさつ。

4. 諮問

【公民館長】

市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代の参加を促す方策。上記について、東村山市立公民館運営審議会に諮問します。

(諮問理由)

公民館では、市民講座等の主催事業を年間を通して開催しているものの、講座参加者の平均年齢は高く、平成31/令和元年度の30歳代・40歳代の割合はおよそ10パーセントにとどまっている。

このことから、市民講座等の公民館主催事業に対し30歳代・40歳代の参加を促す方策について、貴審議会の意見を求めるものです。

5. 審議事項

(1) 令和3年度市民講座のテーマについて

【会長】

資料1。昨年と違うのは、「写真の撮り方セミナー」や、「パークレンジャー体験」、「野鳥の観察」。おそらく以前はないものであった。これらを踏まえ、諮問のあった30代・40代の参加を促す方法を考えていきたい。いま述べた3つの初めてのものが得票を得て、逆に「数学を楽しむ」のような定番だったもので落ちたものもある。これを機に新しい来館者層が生まれることを期待したい。ご意見等願う。

【委員】

新しいものが入ってきたと私も感じる。体を使うものが増えたと思う。市民講座をやっていることを広めることが30代・40代の参加を促すには必要と思う。

【委員】

今回の市民講座は東村山を知るというものが3つ入っている。「住むまちを知る」、「東村山市と近くの川と水系」、「東村山市の文化や芸術活動」。市民講座のコンセプトを感じる。質問であるが、30代・40代の参加割合というのは全体の10%ということであるか？

【公民館長】

お見込みの通り。令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大で参考になる数値がご用意できなかったため、令和元年度の数字をもとに諮問させていただいた。公民館運営審議会でもテーマを決定いただく9つの市民講座、各地区公民館で行っていた単発講座、ここ数年続けていた「声を磨こう」等全14講座を調べたものである。一番受講者の平均年齢が若かったものは「子どもの障がいを考える」で51.8歳であった。

萩山公民館で開催した「クラフトバンドで小物づくり」、これは講師の方も若く、56.8歳。もうひとつ申し上げると「生活雑貨を作ろう」、これは58.4歳であった。しかしながら、14の講座の参加者は30代・40代では10.4%であり諮問の根拠となった。

【委員】

30代・40代は働き盛りである。ただ、保育園や参加者の配偶者の協力などがあれば変わるのではないか。

【公民館長】

「パークレンジャー体験」については土曜日に設定すると学校の登校日と重なる可能性もあるため、日曜日開催することで小中学生とその保護者で参加できることを期待して試みようと考えている。30代・40代の参加については土日開催や夜間開催もやっていきたいと考えている。手の離せない小さなお子様がいる場合には保育室での託児を積極的に活用いただくことも考えている。多くの資料を提供することでより若い参加者を掘り起こす等、具体的な議論を委員方にはよろしくお願ひしたい。

【委員】

30代・40代・50代はダブルケアなので保育も介護もある。誰か見てくれて一緒に講座に来られる環境があればよいと思う。

【委員】

コロナ禍ということ意識して「パークレンジャー体験」や「野鳥の観察」という屋外でできることが選ばれたと思う。「東村山市と近くの川と水系」も外に出てやれるかもしれない。今年ならではと思う。「今後、エネルギー源は、何に頼ると良いのか？」と「気候変動問題とパリ協定」が落ちるのは意外であった。

先ほど子育てと介護の問題の話があった。そこに反抗期の子育てが入れば利用者は精一杯と考える。30・40代の場合その年代の保護者の方が多いと思う。ぜひお知恵を拝借したいという気持ちで臨みたい。

【委員】

市民講座のテーマについては良いと思う。テーマ一覧を見ると年配向けの印象を受けるので、若年層にも魅力的に映るようなテーマを付けるなどの配慮があると良い。

【委員】

「写真の撮り方セミナー」という表現では行きづらいかもしれないので、インスタ映えやSNSを意識してみてもどうか。

【委員】

一眼レフばかりでなく、気軽にスマートフォンで撮れるとか、そういった工夫の余地はあると思う。

【委員】

初めての一眼レフ、としてみてもどうか。

【事業係長】

この審議の内容について補足説明をする。12月の公民館運営審議会が中止になったので、その場で説明ができなかったが、委員方の投票の結果が資料1である。市報やホームページ、市民講座に出られた市民から公募してそれが69件あった。コロナウイルスが流行する前の年は95件あった。その中から職員と市民が協働して事業を行っている市民講座ボランティア会議という組織がある。その方々にテーマを絞っていただいた。69件の中から同じようなテーマや昨年行ったものなどを除外し、20件に絞ったものを委員方に投票いただいたところである。その結果が資料1に得票順に並べられている。飲食を伴うものはコロナ禍によりできないため、除外してある。屋外で行うものはやはりこの状況に適しているということで市民講座ボランティア会議のなかでも残った。30代・40代に訴えていくというところであるが、講座ボランティアの年齢も高いという特徴がある。それにより講座が高齢者向けのものに傾くところはある。

来年度は「住むまちを知る」であるが、郷土研究会の大井会長に毎年やっていただいているが、来年は各公民館輪番での最後になる。得票も一番よかったものになる。

「写真の撮り方セミナー」であるが、昨年公民館開館40周年記念事業をやった際の宇井眞紀子先生の写真展の影響が大きいと思う。

「東村山市と近くの川と水系」であるが、これは市民からテーマが挙がってきたものである。今回多くの得票を得た。

「人工知能社会とは」。人工知能は座学として人気がある。ここ何年か続けて応募があった。

「東村山市の文化や芸術活動」についても公民館開館40周年記念事業の影響が大きいと考えている。来年度、多摩六都の圏域美術展がある。東村山市が当番市である。11月中旬ごろを予定している。それに合わせて講座をできればいいと考えている。

「パークレンジャー体験」。親子での参加ができるように日曜日や夏休みで調整をつけてできればと考えている。

「社会学の扉を開く～今がどんな社会なのか考える～」。コロナ禍で講座が中止になってしまった東京学芸大学の先生がおり、その先生の座学を当てたいと考えている。

「野鳥の観察」は屋外、狭山丘陵にて開催したいと考えている。

「日本の古代史を学ぼう」。受講者に高齢の方が多いため毎年テーマに挙がってくるものである。

これとは別に「シニア学級」を含めて全部で10件の市民講座を開催したい。審議会で決定いただければ講師の選定等に入りたい。

【会長】

廻田公民館で昨年の5月か6月ごろに周辺を歩く講座があったと思う。参加年代はどのようであったか。

【事業係長】

平均年齢は61歳である。19歳の方もいた。その影響もあり平均年齢は下がった。パークレンジャー体験や野鳥の観察にも来てもらえるのではないかと思う。

【委員】

令和3年・4年はアフターコロナ、それをどう乗り切るか、どうやって市民に公民館に来ていただくか、それが大きなテーマと考える。在宅勤務の方も増えているので、通勤時間が短くなる、その辺りを突いたものを宣伝するとよいと思う。先ほどあった

が写真の撮り方というふうにするとイメージが堅いが、あなたにも撮れるスマホのなになに、というふうにしてみるとか、インスタ映えなど若者にも興味を持っていただけるような単語を入れるとよいと思う。初心者からアマチュアまでの講座といったキャッチフレーズもよい。3年後にコロナ禍が落ち着いたら堅いものに戻してもよいかもしれないが、ともかく今は余暇や近所での過ごし方を提供できるようなものがよいと思う。それもひとつ30代・40代を呼び込む方法であると思う。

【事業係長】

タイトルについては従来より講師と相談し、必ずサブタイトルを作っている。そこで良い印象を持っていただくように工夫したい。

また、定数についてであるが、座学となると狭い集会室で行うため、しばらくは定員の半数での開催が考えられる。コロナ対策をしたうえでの開催となる。ご了承ください。

【公民館長】

委員方よりお話のあった、30代・40代の心を掴むようなネーミングは推進していきたい。

【副会長】

私も郷土研究会に入っているのだが、東村山は歴史的にも自然的にもすごい場所である。しかし知られていないことも多いので、そこを多く入れこむとよいのではないか。たとえば「東村山市と近くの川と水系」で、江戸時代から東村山を通った水が江戸に向かっていることを盛り込むなどである。いまも東村山浄水場がある。目に見えないすごい点がある。そういった点があると、関心を持ってもらえるのではないか。

【委員】

写真を撮るのと、地域の魅力を発信するのは面白いと感じながら話を聞いていた。他市でこの状況下で何ができるかという話し合いをしたことがあるが、人気だったのは地域の魅力についてのことである。コロナ禍でも地域のことをオンラインでもなんでも発信していくというのはどうだろうかと思った。

スマホが良いのか一眼レフが良いのかは、どういう方をターゲットにしていくか講師の方と話し合っていくことだと思う。これについては成果発表の場があるといいと思う。

飲食ができないことについてだが、別のところで料理は作って持ち帰るというパターンがあった。料理教室で作っているのをオンラインで配信するというパターンもあった。できないわけではないと思う。

【委員】

ハイブリットにやるのはありである。実際にやる人がいて、オンラインで見ている人がいるという。

【委員】

公民館のオンライン状況が今後どうなっているかに関わってくると思う。学校はすごい勢いで進んでいる。

【会長】

私は写真を専門としているが、写真の撮り方セミナーというと、セミナーなので堅い印象はある。簡単に取れる、上手に撮れる、などの意味合いのネーミングになると良いのではと思う。

いまは、スマホを抜きにして写真はあり得ない時代である。スマホでもいい写真は撮れる。デジカメにはコンパクトカメラとミラーレスカメラや一眼レフカメラと3種類があるが、その辺りは書いても分からないので、私が講座をやるときには、来たときにその話をさせていただいて、条件を選んでいただいている。なにがどう撮れるか見てもらっている。こういう違いがあり、これを使うとこう撮れるといったことである。実際写った写真を見ていただいて、決めていただいている。そのような感じで行えばいい絵がたくさん撮れると思う。

では、テーマとしてはこれでよろしいか。

【委員】

上位9講座とシニア学級ということだが、これは各地区館でもできると考えてよろしいか。

【事業係】

できるものは各地区館に振っていく予定である。

【副会長】

東村山の5つの公民館、雰囲気それぞれ違う。萩山と廻田も違うし、秋津と富士見もまた違う。そういう住んでいる住民の方に、別の地区館に来てもらって、別の地域のことを上手く知ってもらい、新旧の住民の融合ができればよいと思う。

ひとつ気になっているのがジェンダーとかそういった単語が絡むものがあつたらよかつた。そのあたりは詳しい委員の方からご意見あれば聞かせていただいて、なければこれでよいと思う。

【委員】

インクルーシブというか、発達障害のお子さんなども結構いらっしゃるので、そういう遊び場みたいな企画とかがあれば、若い方、そのお母さん方が来たりすることがある。

【副会長】

上位9のテーマの中にはないけれども、そういうものも巻き込んでいければ良いと思う。

【委員】

「パークレンジャー体験」などにいま申し上げたインクルーシブ的を取り入れても良いと思う

【委員】

ジェンダーの話題を取り入れるとしたら「社会学の扉を開く」だろう。

【事業係長】

今年度やる予定で中止になった「平成を振り返る」というテーマがあつた。社会問題などを扱うものであつたが、講師にジェンダーのこともその中に入れてくださいと

頼めばやってもらえるかもしれない。ひとつの市民講座に4回くらい回があるのでその中のひとつに入れていただくということも、講師との相談でできることもある。

【会長】

単発講座は随時あるのか。

【事業係長】

基本的に各地区館で活動しているサークルの中から、講師をお願いしている。サークルを活発にする、地域を活発にするということが基にあって、単発講座ができた経緯がある。

【公民館長】

第20期にも話題に上がったサークルの高齢化があるが、そこで活動しているメンバーを講師に迎え、サークルの良さの宣伝も込みでやっていただく形で、講座参加者が一人でもその会に入ってくればそのサークルの支援にもなる、そういう意味合いも込めて行った。各地区館で特色のあるサークルが引き受けてくれば実現したい。

【委員】

この選ばれたテーマは市民の方と、講座ボランティアの方で話し合っただけということだったので、挙がってきたテーマに何かを改めて入れるということは難しいかもしれないが、インクルーシブの視点などを取り入れてやっていただくということはできると思う。大学の講義でも動画を収録して、字幕を付けるということをした。オンライン上、様々な配慮が必要な時代である。

【委員】

新年度の予算は今年度と比べてどうなっているか。

【公民館長】

原案では令和2年度並みの水準である。

【委員】

Wi-Fiやオンライン動画中継についての予算は。

【公民館長】

そこまでは含まれていない。積極的に議論していきたい。

【委員】

オンライン環境があれば家でも見られる。それを通じて来館していただける機会を作れると思う。アフターコロナを見越していただきたい。

【会長】

このようなところでよろしいか。それではこれで進めていきたい。

6. 報告事項

(1) 主催事業及び講座報告

【事業係長】

資料2であるが、コロナ禍ということで中止になった講座もたくさんある。かなり定員も減らした。9月から講座を再開した。そのなかでも中止になったものもある。後期は5講座のみの開催となった。「世界で起きている今を学ぶ」や「子どもをとりまく環境を知る」は、緊急事態宣言が出てからの募集となったため、かなり定員を減らして募集した。委員に講師になっていただいたものもあるので、そのみ紹介させていただく。

「介護する人される人・互いの人生を豊かに生きる」。白梅学園大学の森山先生と、午頭先生に講師をお願いした。また、東村山市南部包括支援センターの細江氏にも来ていただいた。森山先生には1回目と4回目の2回、講師をお願いした。日本における介護問題の現状について、データを用いて分かりやすく説明をしていただいた。昨今話題となっている老々介護や、ヤングケアラーについても触れて説明していただいたが、特に老々介護やヤングケアラーなど介護者の多様化については、受講者の関心が高いテーマだったようだ。4回目は総括を行っていただいた。この講座では事前に3人の先生方と打ち合わせを行い、日本の介護問題という大きなテーマから、介護現場の課題など現場レベルのテーマまで体系的に学ぶことを目的とした。また、講座終了後も公民館で市民サークルとして活動していくことを狙い、積極的に市民交流の機会を設けた。講座終了後、市民の方より介護者サロンを立ち上げたいという希望があり、このことから3月9日にみんなのかいごサロン第1回目が開催されることとなった。これは白梅学園大学の午頭先生にサポートいただき、専門家の指導の下のサークル立ち上げとなった。

また、単発講座「水辺の絶滅危惧種復活プロジェクト」を杉山先生のご協力で、廻田公民館と狭山丘陵パートナーズの協働で事業を行った。こちらについては廻田公民館長より報告する。

【廻田公民館長】

「水辺の絶滅危惧種復活プロジェクト」ということで、10月30日から11月13日まで3回に渡り、廻田公民館を中心とした講座があった。定員が15名のところ、応募者が8名、受講者が8名すべての方、内訳は男性が6名、女性が2名、平均年齢が60.9歳であった。初回は天候にも恵まれ欠席者もなく和やかに行われた。受講者の中にはふるさと歴史館のイベントにもよく参加される方もいた。講師の杉山先生からは八国山の由来、歴史、二ツ池の上池・下池の由来など詳細に説明していただいた。八国山に生息している生き物についても、詳細に説明していただいた。講師の杉山先生と、ふるさと歴史館の専門職とのコンビネーションも息が合っていたように思えた。第2回目は埋土種子の採取作業をした。全員でバケツに移した二ツ池の泥を、八国山たいけんの里まで運び、こちらで用意した箱に入れる作業をしたが、受講者の一体感があった。最終回は講話で、各々の講師の狭山丘陵の自然と、下宅部遺跡から出土した縄文時代の植物について、プロジェクターを用いて画像を紹介しながら詳細に説明していただいた。採取した埋土種子は今年の7月頃発芽予定である。その頃になったら受講者に声掛けをし、観察会をする予定である。今後廻田公民館を利用してサークル活動をしたいという声があれば、協力していきたい。簡単であるが、以上である。

【副会長】

これが19歳の方が参加したという講座か。

【廻田公民館長】

はい。

【事業係長】

次にホール公演事業等である。11月15日に「東村山フレッシュコンサート」を行った。8月29日にオーディションを行い、合格した学生10組、新人9組の合計19組が11月15日の本番で演奏をした。コロナ禍であるため、座席数を2分の1にして感染拡大防止の対策を講じ実施した。アンケートには、コロナ禍にも関わらずコンサートを開催したことへの感謝のコメントがいくつもあった。

続いて寄席である。11月16日は萩山公民館での予定であったが、萩山公民館は集会室で寄席をやるため非常に狭く感染防止の観点から中止とした。1月30日は中央公民館で開催の予定であるが、緊急事態宣言により夜8時以降外出の自粛が要請され、中央公民館は夜会の開催であったため中止となった。残るのは富士見公民館の3月27日であるが、中央公民館でチケット料金が還付となったことを踏まえ、チケットを当日販売のみとし、定員を絞って60名ということで開催する予定である。

続いて資料2裏面、自主公演事業である。慶應義塾大学の学生にビッグバンドをお願いしていたが、管楽器を使用するので飛沫が飛ぶということでこちらも中止とした。

続いて知的障害者学級、かめのご学級である。前半はほとんど中止となった。7月から再開し、かめのご学級の参加者はコロナウイルスの感染はなかったが、基礎疾患があるということで1月2月の緊急事態宣言中は中止にした。3月の閉級式はできればよいと準備をしているところである。

続いてキッズ伝統芸能である。三味線の体験を行っているが、3月末まで公民館で実施している。いまのところ一人もやめる方はなく活動している。以上である。

【委員】

「防災対策を学ぶ」について、後日でもいいので30代・40代のことを考えるにあたって内容を知りたい。やらなければいけないから来ると、やりたいから来る、の2種類がある。

【事業係長】

承知した。

7. その他

(1) 次回日程について

【会長】

次回は5月10日月曜日、18時より中央公民館にて開催する。